D. D. (1978) Gametophytes of *Botrychium multifidum* as grown in axenic culture. Amer. Fern J. **68**: 71-75. Jeffrey, E. C. (1898) The gametophyte of *Botrychium virginianum*. Trans. Roy. Canadian Inst. **5**: 265-294. Lyon, H. L. (1905) A new genus of Ophioglossaceae. Bot. Gaz. **40**: 455-458. Nishida, M. (1954) Gametophyte of *Botrychium japonicum* Undrew. Journ. Jap. Bot. **29**: 239-244. —— (1955) The morphology, gametophyte, young sporophyte and systematic position of *Botrychium japonicum* Und. Phytomorph. **5**: 449-456. —— (1956) The gametophyte of *Botrychium virginianum* Sw. and its endogenous fungus. Phytomorph. **6**: 67-73. Nozu, Y. (1954) The gametophyte and young sporophyte of *Botrychium japonicum* Und. Phytomorph. **4**: 430-434. Rao, L. N. (1939) A note on the gametophyte of *Botrychium virginianum* var. *lanuginosum* Sw. Curr. Sci. **3**: 119-120. Whittier, D. P. (1972) Gametophytes of *Botrychium dissectum* as grown in sterile culture. Bot. Gaz. **133**: 336-339.

* * * *

長野県菅平で採集されたヤマハナワラビの配偶体について，その外部形態と解剖学的な観察を行った。ハナワラビ属の配偶体に関するこれまでの報告は，若い胞子体をつけた成熟後の配偶体についての研究が大部分であり，若い未成熟な配偶体についての報告は数例しかない。今回採集された最小の球形の配偶体は，Whittier (1972) による *Botrychium dissectum* の培養の報告からみて，仮根形成が始ったばかりのかなり初期の配偶体と思われる。また，造卵器形成前の若い配偶体は，最近報告された Gifford and Brandon (1978) の培養によるヤマハナワラビの配偶体と比較すると，造精器が形成される背面の縦の稜の発達がいちじるしく，その生長によって分裂組織がしばしば配偶体の先端の腹面側に寄った位置に見られた。成熟した配偶体の形態は，これまで報告された数種のハナワラビ属の配偶体と基本的に同じ形態が観察されたが，造精器の壁細胞は2層でなく，西田(1955) のオオハナワラビについての報告と同じように，ほとんど3層であった。また，造卵器の腹溝細胞について，従来ハナワラビ属におけるその存在があまりはっきりとされていなかったが，今回いくつかの造卵器でその存在が観察された。

□前川文夫： **植物入門** A5版，136 pp.，さし絵白黒60，八坂書房，1979，¥1,600.

植物入門と言ってもありふれた入門書とは同一でなく，前川氏が多年に亘り蓄積したものの一部を集めたもので，興味と参考になる読物で，一つ一つが，人を引きつけずにはおかないのであるということができ，前川氏でなければ書けないと思う。八坂の他のものと共に極めて興味ある出版である。 (久内清孝)